

公立高等学校配置計画案

(平成28年度～30年度)

平成 2 7 年 6 月

北海道教育委員会

目 次

I 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）策定の考え方

1 趣旨	1
2 中卒者数の見込み	1
3 基本的考え方	1
4 配置計画案（平成28年度～30年度）の概要	2
5 配置計画の変更	3

II 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）の内容

1 中学校卒業生数	4
2 欠員の状況	4
3 定員及び中学校卒業生数に対する割合	4
4 配置計画案（平成28年度～30年度）の学校別内訳	5
5 中学校卒業生の推計及び推移	9

III 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）学区別個表

空知南学区	11
空知北学区	12
石狩学区	13
後志学区	15
胆振西学区	16
胆振東学区	17
日高学区	18
渡島学区	19
檜山学区	20
上川南学区	21
上川北学区	22
留萌学区	23
宗谷学区	24
オホーツク中学区	25
オホーツク東学区	26
オホーツク西学区	27
十勝学区	28
釧路学区	29
根室学区	30

I 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成28年度から平成30年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成31年度から平成34年度までの見通しを示したものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成28年に4万5,424人、平成29年に4万5,676人、平成30年に4万4,833人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、「新たな高校教育に関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、次のとおり新しい高校づくり等を推進する。

(1) 地域キャンパス校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域キャンパス校とし、センター校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編にあわせて進める。

(3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) フィールド制の導入

普通科の特色づくりとして、まとまりのある分野の科目群をフィールドとして設定し、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習することが可能となるフィールド制の導入を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 産業キャンパスの活用

職業学科を含めた再編にあわせ、産業教育施設や実習地などを有効に活用するため、産業キャンパス化について検討する。

4 配置計画案（平成28年度～30年度）の概要

昨年決定した平成28年度及び平成29年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成30年度の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 平成28年度～29年度(平成26年度決定)高校配置計画の変更

ア 全日制課程

(ア) 学級増

平成27年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、学級減を行った砂川高校ほか4校について、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、平成28年度にそれぞれ1学級の増を行う。

(イ) 移管

奥尻町からの要望などを考慮し、平成28年度に奥尻高校を道から奥尻町に移管する。

(ウ) 地域キャンパス校の導入

今後の中卒者数の状況などを考慮し、平成28年度から新たに長万部高校を地域キャンパス校とする。

イ 定時制課程

再編整備等

平成29年度に1学級減する函館工業高校の学科については、機械科と電気科を電子機械科に再編する。

(3) 平成30年度高校配置計画

ア 全日制課程

(ア) 学級減

各学区ごとに、中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、滝川西高校ほか8校で10学級の減を行う。

(イ) 再編整備

市内に複数校が設置され、中卒者数の減少により望ましい学校規模の維持が困難と見込まれる小樽市内及び留萌市内において、生徒の学習環境の充実を図る観点から再編整備を行う。

(ウ) 単位制の導入

生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、留萌高校及び留萌千望高校を再編した新設校の普通科に単位制を導入する。

5 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

II 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）の内容

1 中学校卒業生数

平成27年（実績）	45,958人	（対前年比 1,662人減少）
平成28年（推計）	45,424人	（対前年比 534人減少）
平成29年（推計）	45,676人	（対前年比 252人増加）
平成30年（推計）	44,833人	（対前年比 843人減少）

2 欠員の状況

（平成27年5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合計
2,823人（532人）	1,242人（73人）	1,801人（183人）	5,866人（788人）

※（ ）は対前年増減

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計	
		全日制	定時制	中等教育学校				
平成27年度	定 員（人）	34,820	2,440	240	760	11,875	50,135	
	割 合（％）	75.8	5.3	0.5	1.7	25.8	109.1	
公立高等学校配置計画	平成28年度	学級増（人）	200	0	0	0	0	200
		学級減（人）	-240	-80	0	0	0	-320
		新 設（人）	280	0	0	0	0	280
		募集停止（人）	-360	0	0	0	0	-360
		差引増減（人）	-120	-80	0	0	0	-200
		定 員（人）	34,700	2,360	240	760	11,875	49,935
		割 合（％）	76.4	5.2	0.5	1.7	26.1	109.9
公立高等学校配置計画	平成29年度	学級増（人）	200	0	0	0	0	200
		学級減（人）	-80	-40	0	0	0	-120
		新 設（人）	240	0	0	0	0	240
		募集停止（人）	-400	0	0	0	0	-400
		差引増減（人）	-40	-40	0	0	0	-80
		定 員（人）	34,660	2,320	240	760	11,875	49,855
		割 合（％）	75.9	5.1	0.5	1.7	26.0	109.1
公立高等学校配置計画	平成30年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0
		学級減（人）	-400	0	0	0	0	-400
		新 設（人）	400	0	0	0	0	400
		募集停止（人）	-440	0	0	0	0	-440
		差引増減（人）	-440	0	0	0	0	-440
		定 員（人）	34,220	2,320	240	760	11,875	49,415
		割 合（％）	76.3	5.2	0.5	1.7	26.5	110.2

* 1 高等専門学校及び私立の定員については、平成28年度以降は見込みを記載。

* 2 浜中町立霧多布高校は、1学級の定員を30人としている。

4 配置計画案（平成28年度～30年度）の学校別内訳

◎ 平成27年度入学者選抜における第2次募集後の学級減／全日制課程

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H27	空 知 南	道	夕 張	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	空 知 北	道	砂 川	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
	石 狩	道	千 歳 北 陽	全	普 通	7	6	-1	7学級→6学級
	渡 島	道	森	全	総 合	3	2	-1	3学級→2学級
	宗 谷	道	稚 内	全	普 通	4	3	-1	6学級→5学級
	十 勝	道	幕 別	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
		道	広 尾	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
	釧 路	道	標 茶	全	総 合	3	2	-1	3学級→2学級
根 室	道	根 室 西	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級	
計			9校					-9 (-360)	

◎ 平成28～30年度高校配置計画／全日制課程

(1) 学級増減

① 学級増(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H28	空 知 北	道	※砂 川	全	普 通	3	4	+1	3学級→4学級
	渡 島	道	※ 森	全	総 合	2	3	+1	2学級→3学級
	十 勝	道	※広 尾	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
	釧 路	道	※標 茶	全	総 合	2	3	+1	2学級→3学級
	根 室	道	※根 室 西	全	普 通	1	2	+1	1学級→2学級
(小計)			5校					+5	
H29	石 狩	道	札幌西陵	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌白石	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
		道	札幌厚別	全	総 合	7	8	+1	7学級→8学級
		道	北広島西	全	普 通	7	8	+1	7学級→8学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	6	7	+1	6学級→7学級
(小計)			5校					+5	
H30	-								
計			10校					+10 (+400)	

② 学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H28	石 狩	道	札幌白石	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
		道	北広島西	全	普 通	8	7	-1	8学級→7学級
	後 志	道	小樽商業	全	情報処理	2	1	-1	3学級→2学級
	胆 振 東	道	白老東	全	普 通	3	2	-1	3学級→2学級
	渡 島	道	函館商業	全	流通ビジネス	2	1	-1	5学級→4学級
	オホーツク中	道	北見工業	全	電 気	2	1	-1	4学級→3学級
(小計)			6校					-6	
H29	渡 島	道	函館西	全	普 通	4	3	-1	4学級→3学級
		道	上 磯	全	普 通	2	1	-1	2学級→1学級
(小計)			2校					-2	

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H30	空 知 北	市	滝 川 西	全	(検討中)	(検討中)		-1	7 学級→6 学級
	石 狩	道	札 幌 南 陵	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級
		道	札 幌 厚 別	全	総 合	8	7	-1	8 学級→7 学級
		道	石 狩 南	全	普 通	8	7	-1	8 学級→7 学級
	渡 島	市	市 立 函 館	全	普 通	8	6	-2	8 学級→6 学級
	上 川 南	道	旭 川 北	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
		道	旭 川 工 業	全	(検討中)	1	0	-1	7 学級→6 学級
	十 勝	道	常 広 三 条	全	普 通	7	6	-1	7 学級→6 学級
釧 路	道	釧 路 江 南	全	普 通	6	5	-1	6 学級→5 学級	
	(小計)		9 校					-10	
計			17 校					-18 (-720)	

(2) 再編整備

① 再編統合等

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
H28	上 川 南	道	旭 川 凌 雲	全	普 通	4	0	-4	4 学級→0 学級
		道	旭 川 東 栄	全	普 通	4	0	-4	4 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	7	+7	7 学級 旭川凌雲校舎を使用
	(小計)		再編等に伴う募停校2校、新設校1校						-1 (8学級の減、新設校で7学級の増)
H29	根 室	道	根 室	全	普 通	3	0	-3	5 学級→0 学級
					商 業	1	0	-1	
					事務情報	1	0	-1	
		道	根 室 西	全	普 通	2	0	-2	2 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	普 通	0	4	+4	6 学級 根室校舎を使用
					商 業	0	1	+1	
事務情報	0				1	+1			
(小計)		再編等に伴う募停校2校、新設校1校						-1 (7学級の減、新設校で6学級の増)	
H30	後 志	道	小 樽 商 業	全	商 業	1	0	-1	2 学級→0 学級
					情報処理	1	0	-1	
		道	小 樽 工 業	全	電 子 機 械	1	0	-1	3 学級→0 学級
					電 気	1	0	-1	
					建 設	1	0	-1	
		道	新 設 校	全	(検討中)	0	4	+4	4 学級 小樽工業校舎を使用
	留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	0	-4	4 学級→0 学級
		道	留 萌 千 望	全	電 気・建 築	1	0	-1	2 学級→0 学級
					情報ビヅ研	1	0	-1	
		道	新 設 校	全	普 通	0	4	+4	6 学級 留萌千望校舎を使用
					電 気・建 築	0	1	+1	
情報ビヅ研	0	1	+1						
(小計)		再編等に伴う募停校4校、新設校2校						-1 (11学級の減、新設校で10学級の増)	
計			再編等に伴う募停校8校、新設校4校						-3 (-120)

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1学年総学級数
						実施前	実施後		
H28	オホーツク東	道	小 清 水	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	(小計)		1校					-1	
H29	後 志	道	共 和	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	オホーツク西	道	滝 上	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
	十 勝	道	新 得	全	普 通	1	0	-1	1学級→0学級
(小計)			3校					-3	
H30	-								
計			4校					-4 (-160)	

(3) 移管(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	備 考
						実施前	実施後		
H28	檜 山	道	※奥 尻	全	普 通	1	0	-1	道から奥尻町に移管
		町	※新 設 校	全	普 通	0	1	+1	
(小計)			1校					±0	
H29	-								
H30	-								
計			1校					±0	

(4) 地域キャンパス校の導入(学校名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	センター校	備 考	
H28	渡 島	道	※長 万 部	全	普 通	1	八 雲		
		(小計)		1校			1校		
H29	-								
H30	-								
計			1校				1校		

(5) 単位制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	備 考
H28	上 川 南	道	新 設 校	全	普 通	7	旭川凌雲・旭川東栄の再編
		(小計)		1校			
H29	後 志	道	岩 内	全	普 通	3	根室・根室西の再編
					普 通	4	
					商 業	1	
					事務情報	1	
(小計)			2校				
H30	留 萌	道	新 設 校	全	普 通	4	留萌・留萌千望の再編
		(小計)		1校			
計			4校				

◎ 平成28～30年度高校配置計画／定時制課程(学科名の前の※印は、平成26年度に決定した配置計画からの変更。)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
H 2 8	渡 島	道	函 館 工 業	定	建 築	1	0	- 1	3 学級→2 学級
	釧 路	道	釧 路 工 業	定	電 気	1	0	- 1	2 学級→1 学級
	(小計)		2 校					- 2	
H 2 9	渡 島	道	函 館 工 業	定	※機 械	1	0	- 1	2 学級→1 学級
					※電 気	1	0	- 1	
					※電 子機 械	0	1	+ 1	
	(小計)		1 校					- 1	
H 3 0	-								
計			3 校					- 3 (- 1 2 0)	

5 中学校卒業者の推計及び推移

中学校卒業者推計表（27年推計）

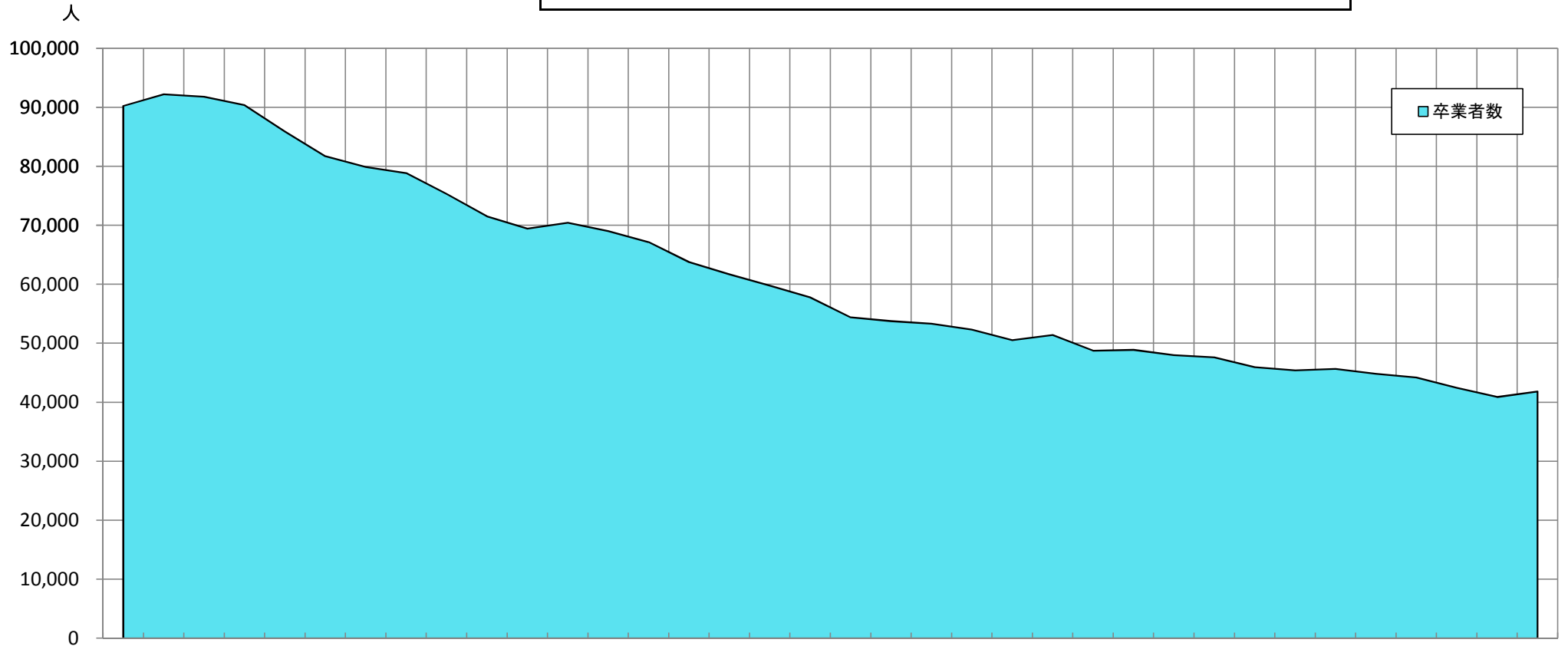
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年
空知南	1,382	1,302 ▲ 80	1,270 ▲ 32	1,274 +4	1,189 ▲ 85	1,119 ▲ 70	1,097 ▲ 22	1,080 ▲ 17
空知北	1,187	1,149 ▲ 38	1,131 ▲ 18	1,036 ▲ 95	995 ▲ 41	958 ▲ 37	860 ▲ 98	912 +52
石 狩	19,943	19,822 ▲ 121	20,152 +330	19,931 ▲ 221	19,822 ▲ 109	19,048 ▲ 774	18,617 ▲ 431	19,260 +643
後 志	1,711	1,685 ▲ 26	1,730 +45	1,671 ▲ 59	1,596 ▲ 75	1,461 ▲ 135	1,412 ▲ 49	1,434 +22
胆 振 西	1,615	1,540 ▲ 75	1,584 +44	1,581 ▲ 3	1,538 ▲ 43	1,473 ▲ 65	1,382 ▲ 91	1,393 +11
胆 振 東	1,890	1,814 ▲ 76	1,848 +34	1,897 +49	1,752 ▲ 145	1,795 +43	1,714 ▲ 81	1,754 +40
日 高	588	639 +51	606 ▲ 33	585 ▲ 21	552 ▲ 33	528 ▲ 24	510 ▲ 18	547 +37
渡 島	3,586	3,442 ▲ 144	3,306 ▲ 136	3,246 ▲ 60	3,260 +14	3,127 ▲ 133	2,949 ▲ 178	2,977 +28
檜 山	308	325 +17	311 ▲ 14	297 ▲ 14	300 +3	250 ▲ 50	250 ±0	224 ▲ 26
上 川 南	3,888	3,811 ▲ 77	3,897 +86	3,647 ▲ 250	3,781 +134	3,583 ▲ 198	3,442 ▲ 141	3,558 +116
上 川 北	526	499 ▲ 27	557 +58	552 ▲ 5	498 ▲ 54	470 ▲ 28	464 ▲ 6	473 +9
留 萌	365	346 ▲ 19	348 +2	333 ▲ 15	359 +26	337 ▲ 22	300 ▲ 37	287 ▲ 13
宗 谷	544	552 +8	558 +6	590 +32	514 ▲ 76	529 +15	504 ▲ 25	512 +8
オホーツク中	1,418	1,382 ▲ 36	1,336 ▲ 46	1,371 +35	1,248 ▲ 123	1,241 ▲ 7	1,138 ▲ 103	1,165 +27
オホーツク東	564	597 +33	556 ▲ 41	555 ▲ 1	533 ▲ 22	516 ▲ 17	497 ▲ 19	483 ▲ 14
オホーツク西	520	558 +38	527 ▲ 31	499 ▲ 28	520 +21	471 ▲ 49	464 ▲ 7	417 ▲ 47
十 勝	3,220	3,186 ▲ 34	3,100 ▲ 86	3,061 ▲ 39	3,059 ▲ 2	2,964 ▲ 95	2,861 ▲ 103	2,849 ▲ 12
釧 路	1,996	2,025 +29	2,056 +31	1,994 ▲ 62	1,965 ▲ 29	1,877 ▲ 88	1,797 ▲ 80	1,841 +44
根 室	707	750 +43	803 +53	713 ▲ 90	735 +22	741 +6	655 ▲ 86	676 +21
合 計	45,958	45,424 ▲ 534	45,676 +252	44,833 ▲ 843	44,216 ▲ 617	42,488 ▲ 1,728	40,913 ▲ 1,575	41,842 +929

※中学校卒業者数は、平成27年5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童・生徒数を
基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※平成27年は実数、平成28年以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移
 （昭和62年～平成34年）

（注）1 昭和62年3月～平成27年3月は実卒業生数である。
 2 平成28年3月～平成34年3月は学校基本調査（平成27年5月1日現在）に
 準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
卒業生数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907	48,015	47,620	45,958	45,424	45,676	44,833	44,216	42,488	40,913	41,842
増減	1,298	1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	1,021	-1,415	-1,867	-3,380	-2,066	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	900	-2,659	129	-892	-395	-1,662	-534	252	-843	-617	-1,728	-1,575	929

Ⅲ 公立高等学校配置計画案（平成28年度～30年度）学区別個表

空知南学区高校配置計画案										
区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34年までの増減	平成31～34年までの増減
学区内中卒者数	1,382	1,302	1,270	1,274	1,189	1,119	1,097	1,080	▲ 302	▲ 194
対前年増減		▲ 80	▲ 32	+ 4	▲ 85	▲ 70	▲ 22	▲ 17		
岩見沢市中卒者数	(727)	(695)	(699)	(706)	(671)	(627)	(605)	(614)	▲ 113	▲ 92
対前年増減		▲ 32	+ 4	+ 7	▲ 35	▲ 44	▲ 22	+ 9		
美唄市中卒者数	(184)	(181)	(172)	(171)	(158)	(124)	(136)	(126)	▲ 58	▲ 45
対前年増減		▲ 3	▲ 9	▲ 1	▲ 13	▲ 34	+ 12	▲ 10		
三笠市中卒者数	(47)	(50)	(57)	(45)	(58)	(50)	(60)	(57)	+ 10	+ 12
対前年増減		+ 3	+ 7	▲ 12	+ 13	▲ 8	+ 10	▲ 3		
夕張市中卒者数	(65)	(39)	(38)	(42)	(33)	(33)	(31)	(35)	▲ 30	▲ 7
対前年増減		▲ 26	▲ 1	+ 4	▲ 9	± 0	▲ 2	+ 4		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
岩見沢東	5		5	-1				○4年間で4～5学級相当の調整が必要		
単 岩見沢西	4		4	14				○欠員の状況、これまでの調整や地元からの進学状況を考慮し、岩見沢市及び周辺市町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要		
岩見沢農業		農 7	7	19				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
*岩見沢緑陵	4	商 2	6	0				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
総 美唄尚栄	3		3	27						
美唄聖華		看 2	2	1						
*三 笠		家 1	1	0						
月 形	2		2	36						
夕 張	2→1		1	1				H27二次募集後学級減		
長 沼	2		2	13						
栗 山	2		2	2						
南 幌	1		1	20						
12校	25 →24	12	36	132						

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は全日制普通科単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域キャンパス校、「産」は産業キャンパス。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 ()は定時制課程(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。(以下同)

注5 平成27年度募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注6 「平成31～34年度までの見通し」欄の学級数の調整については平成34年と平成30年の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,187	1,149	1,131	1,036	995	958	860	912	▲ 275	▲ 124
対前年増減		▲ 38	▲ 18	▲ 95	▲ 41	▲ 37	▲ 98	+ 52		
滝川市中卒者数	(360)	(345)	(354)	(320)	(326)	(316)	(283)	(333)	▲ 27	+ 13
対前年増減		▲ 15	+ 9	▲ 34	+ 6	▲ 10	▲ 33	+ 50		
砂川市中卒者数	(149)	(157)	(157)	(147)	(136)	(134)	(124)	(118)	▲ 31	▲ 29
対前年増減		+ 8	± 0	▲ 10	▲ 11	▲ 2	▲ 10	▲ 6		
歌志内市中卒者数	(21)	(21)	(31)	(21)	(15)	(21)	(17)	(14)	▲ 7	▲ 7
対前年増減		± 0	+ 10	▲ 10	▲ 6	+ 6	▲ 4	▲ 3		
芦別市中卒者数	(131)	(104)	(103)	(96)	(78)	(81)	(80)	(83)	▲ 48	▲ 13
対前年増減		▲ 27	▲ 1	▲ 7	▲ 18	+ 3	▲ 1	+ 3		
赤平市中卒者数	(76)	(84)	(79)	(77)	(63)	(58)	(42)	(57)	▲ 19	▲ 20
対前年増減		+ 8	▲ 5	▲ 2	▲ 14	▲ 5	▲ 16	+ 15		
深川市中卒者数	(163)	(162)	(167)	(133)	(159)	(140)	(120)	(117)	▲ 46	▲ 16
対前年増減		▲ 1	+ 5	▲ 34	+ 26	▲ 19	▲ 20	▲ 3		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
滝川	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要		
滝川工業		工2	2	6				○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要		
*滝川西	3	商4	7	2			▲1 (学科検討中)	○滝川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
単砂川	4→3		3	20	普+1 (計画変更)			○深川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		H27二次募集後学級減
奈井江商業		商1	1	0				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
新十津川農業		農1	1	0				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
芦別	3		3	0						
深川西	4		4	30						
深川東		農1 商2	3	81						
9校	20 →19	11	30	139	普+1		▲1 (学科検討中)			

石狩学区高校配置計画案

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	19,943	19,822	20,152	19,931	19,822	19,048	18,617	19,260	▲ 683	▲ 671
対前年増減		▲ 121	+ 330	▲ 221	▲ 109	▲ 774	▲ 431	+ 643		
札幌市中卒者数	(15,720)	(15,506)	(15,859)	(15,730)	(15,624)	(15,034)	(14,794)	(15,240)	▲ 480	▲ 490
対前年増減		▲ 214	+ 353	▲ 129	▲ 106	▲ 590	▲ 240	+ 446		
江別市中卒者数	(1,315)	(1,296)	(1,248)	(1,237)	(1,212)	(1,137)	(1,074)	(1,179)	▲ 136	▲ 58
対前年増減		▲ 19	▲ 48	▲ 11	▲ 25	▲ 75	▲ 63	+ 105		
千歳市中卒者数	(861)	(891)	(921)	(984)	(931)	(889)	(943)	(975)	+ 114	▲ 9
対前年増減		+ 30	+ 30	+ 63	▲ 53	▲ 42	+ 54	+ 32		
恵庭市中卒者数	(651)	(702)	(677)	(662)	(673)	(630)	(609)	(668)	+ 17	+ 6
対前年増減		+ 51	▲ 25	▲ 15	+ 11	▲ 43	▲ 21	+ 59		
北広島市中卒者数	(676)	(651)	(699)	(623)	(660)	(605)	(548)	(552)	▲ 124	▲ 71
対前年増減		▲ 25	+ 48	▲ 76	+ 37	▲ 55	▲ 57	+ 4		
石狩市中卒者数	(513)	(591)	(559)	(526)	(568)	(599)	(518)	(503)	▲ 10	▲ 23
対前年増減		+ 78	▲ 32	▲ 33	+ 42	+ 31	▲ 81	▲ 15		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要	
	普通	職業	計							
札幌東	8		8	-1				○4年間で11～12学級相当の調整が必要 ○市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体で定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
札幌西	8		8	-1						
札幌南	8		8	-1						
札幌北	8		8	0						
札幌月寒	8		8	-3						
札幌啓成	8		8	-2						
札幌北陵	8		8	-1						
単 札幌手稲	8		8	0						
フ 札幌丘珠	8		8	0						
札幌西陵	7		7	0		普+1				
単 札幌白石	8		8	0	普▲1	普+1				
単 札幌東陵	8		8	1						
札幌南陵	6		6	0			普▲1			
札幌東豊	8		8	0						
総 札幌厚別	7		7	-1		総+1	総▲1			
札幌真栄	4		4	-1						
フ 札幌あすかぜ	8		8	3						
札幌稲雲	7		7	0						
フ 札幌平岡	6		6	-1						
単 札幌英藍	8		8	0						

学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単 札幌白陵	4		4	0					
札幌国際情報	4	工 商	1 3	8 -1					
江 別	5	商 家	2 1	8 0					
フ 野 幌	7		7	7					
単 大 麻	7		7	0					
千 歳	7	商	2	9 3					
フ 千歳北陽	7→6		6	27					H27二次募集後学級減
単 北 広 島	8		8	-1					
北広島西	8		8	6	普▲1	普+1			
石 狩 南	8		8	0			普▲1		
当 別	3	農 家	1 1	5 59					
恵 庭 南	8		8	6					
恵 庭 北	7		7	0					
札幌工業		工	8	8 -3					
札幌琴似工業		工	8	8 -1					
札幌東商業		商	8	8 0					
総 石狩翔陽	8		8	0					
単 *札幌旭丘	8		8	-5					
*札幌藻岩	8		8	-1					
*札幌平岸	8		8	0					
*札幌清田	8		8	0					
中 等 *市立札幌開成	4		4	1					コスモサイエンス科単位制
*札幌新川	8		8	0					
*札幌啓北商業		商	6	6 -1					
44校	284 →283	41	324	88	普▲2	普+3 総+1	普▲2 総▲1		

後志学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,711	1,685	1,730	1,671	1,596	1,461	1,412	1,434	▲ 277	▲ 237
対前年増減		▲ 26	+ 45	▲ 59	▲ 75	▲ 135	▲ 49	+ 22		
小樽市中卒者数	(943)	(933)	(934)	(926)	(882)	(773)	(781)	(786)	▲ 157	▲ 140
対前年増減		▲ 10	+ 1	▲ 8	▲ 44	▲ 109	+ 8	+ 5		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
小樽潮陵	6		6	0				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○農業科について、配置の在り方の検討が必要		
単 小樽桜陽	6		6	3						
小樽商業		商 3	3	20	商▲1		商▲2			
小樽工業		工 3	3	4			工▲3			
新設校						+ 4 (学科検討中)				小樽工業校舎を使用
小樽水産		水 4	4	0						
総 余市紅志	2		2	24						
岩 内	3	商 1	4	55		普通科単位制導入				寿都のセンター校
地 寿 都	1		1	13						
共 和	1		1	25		普▲1				
単 倶 知 安	4		4	39						蘭越のセンター校
地 蘭 越	1		1	20						
倶知安農業		農 1	1	6						
12校	24	12	36	209	商▲1	普▲1	商▲2、工▲3 + 4 (学科検討中)			

胆振西学区高校配置計画案

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減	
学区内中卒者数	1,615	1,540	1,584	1,581	1,538	1,473	1,382	1,393	▲ 222	▲ 188	
対前年増減		▲ 75	+ 44	▲ 3	▲ 43	▲ 65	▲ 91	+ 11			
室蘭市中卒者数	(700)	(660)	(721)	(699)	(664)	(619)	(598)	(532)	▲ 168	▲ 167	
対前年増減		▲ 40	+ 61	▲ 22	▲ 35	▲ 45	▲ 21	▲ 66			
登別市中卒者数	(451)	(454)	(466)	(438)	(489)	(420)	(397)	(441)	▲ 10	+ 3	
対前年増減		+ 3	+ 12	▲ 28	+ 51	▲ 69	▲ 23	+ 44			
伊達市中卒者数	(320)	(303)	(281)	(305)	(291)	(311)	(281)	(298)	▲ 22	▲ 7	
対前年増減		▲ 17	▲ 22	+ 24	▲ 14	+ 20	▲ 30	+ 17			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
室 蘭 栄	6		6	0					○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○伊達市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要		
単 室蘭清水丘	4		4	0							
総 室蘭東翔	5		5	0							
室蘭工業		工 5	5	36							
登別青嶺	4		4	-2							
中 登別明日	2		2	7							
伊 達	3		3	2							虻田のセンター校
伊達緑丘	4		4	-2							
地 虻 田		商 1	1	8							
*壮 警		農 1	1	10							
10校	28	7	35	59							

胆振東学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減
	学区内中卒者数	1,890	1,814	1,848	1,897	1,752	1,795	1,714	1,754	▲ 136
対前年増減		▲ 76	+ 34	+ 49	▲ 145	+ 43	▲ 81	+ 40		
苫小牧市中卒者数	(1,571)	(1,496)	(1,571)	(1,606)	(1,480)	(1,538)	(1,454)	(1,493)	▲ 78	▲ 113
対前年増減		▲ 75	+ 75	+ 35	▲ 126	+ 58	▲ 84	+ 39		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31~34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で2~3学級相当の調整が必要 ○地元からの進学状況、中卒者数、欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、苫小牧市及び周辺町において再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
苫小牧東	6		6	0						厚真のセンター校
苫小牧西	4		4	0						穂別のセンター校
単 苫小牧南	5		5	0						
苫小牧工業		工 6	6	0						
苫小牧総合経済		商 4	4	5						
白 老 東	3		3	0	普▲1					
地 厚 真	1		1	3						
地 穂 別	1		1	21						
追 分	1		1	3						
中高 鶴 川	2		2	15						
10校	23	10	33	47	普▲1					

日高学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34年までの増減	平成31~34年までの増減
学区内中卒者数	588	639	606	585	552	528	510	547		
対前年増減		+ 51	▲ 33	▲ 21	▲ 33	▲ 24	▲ 18	+ 37	▲ 41	▲ 38
浦河町中卒者数	(136)	(135)	(103)	(120)	(99)	(103)	(95)	(79)		
対前年増減		▲ 1	▲ 32	+ 17	▲ 21	+ 4	▲ 8	▲ 16	▲ 57	▲ 41
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31~34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 静 内	5		5	9				○4年間で0~1学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、欠員の状況を考慮し、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		平取のセンター校
静内農業		農 2	2	32						
富 川	1		1	15						
地 平 取	1		1	19						
総 浦 河	4		4	24						
中高 *えりも	2		2	52						
6校	13	2	15	151						

渡島学区高校配置計画案

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	3,586	3,442	3,306	3,246	3,260	3,127	2,949	2,977	▲ 609	▲ 269
対前年増減		▲ 144	▲ 136	▲ 60	+ 14	▲ 133	▲ 178	+ 28		
函館市中卒者数	(2,301)	(2,215)	(2,123)	(2,023)	(2,084)	(1,976)	(1,863)	(1,925)	▲ 376	▲ 98
対前年増減		▲ 86	▲ 92	▲ 100	+ 61	▲ 108	▲ 113	+ 62		
北斗市中卒者数	(481)	(458)	(459)	(501)	(481)	(451)	(420)	(448)	▲ 33	▲ 53
対前年増減		▲ 23	+ 1	+ 42	▲ 20	▲ 30	▲ 31	+ 28		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
函館中部	6		6	-1				○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○望ましい学校規模を下回る函館市内の高校 (地域キャンパス校を除く)については早 急に再編の検討が必要 ○中卒者数を考慮し、学校・学科の配置の在 り方も含め、北斗市において、再編の検討 が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、学科の見直しや定員調整などについて 検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地 元からの進学率が高い小規模校につい ては、地域キャンパス校化の検討が必要		南茅部のセンター校
函館西	4		4	0		普▲1				
函館稜北	3		3	0						
単 *市立函館	8		8	0			普▲2			
函館水産	水 4		4	7						
函館商業	商 5		5	0	商▲1					福島商業のセンター校
函館工業	工 6		6	0						
(函館工業)	(工3)	(3)	(110)	[工▲1]	[工▲1]					
地 南茅部	1		1	16						
上 磯	2		2	7		普▲1				
七 飯	3		3	-1						
大野農業	農 4		4	43						
松 前	2		2	35						
*知内	2		2	18						
地 福島商業	商 1		1	17						
八 雲	3 商 1		4	60						長万部のセンター校
総 森	3→2		2	1	総+1 (計画変更)					H27二次募集後学級減
長万部	1		1	7	地域キャンパス校化 (計画変更)					
17校	38 →37	21	58	209	商▲1 総+1 (工▲1)	普▲2 (工▲1)	普▲2			

檜山学区高校配置計画案

区 分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減
学区内中卒者数		308	325	311	297	300	250	250	224	▲ 84	▲ 73
対前年増減			+ 17	▲ 14	▲ 14	+ 3	▲ 50	± 0	▲ 26		
江差町中卒者数		(57)	(62)	(66)	(69)	(51)	(51)	(54)	(38)	▲ 19	▲ 31
対前年増減			+ 5	+ 4	+ 3	▲ 18	± 0	+ 3	▲ 16		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し			摘要
	普通	職業	計								
単 江 差	3		3	14				○4年間で1～2学級相当の調整が必要			
上ノ国	1		1	17				○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要			
総 檜 山 北	3		3	30				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、再編整備を含め、その在り方の検討が必要			
奥 尻	1		1	23	[道立] 普▲1 [町立] 普+1 (計画変更)			○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要			道から奥尻町に移管
4校	8	0	8	84	普▲1 普+1						

上川南学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減	
	学区内中卒者数	3,888	3,811	3,897	3,647	3,781	3,583	3,442	3,558	▲ 330	▲ 89
対前年増減		▲ 77	+ 86	▲ 250	+ 134	▲ 198	▲ 141	+ 116			
旭川市中卒者数	(2,878)	(2,865)	(2,979)	(2,701)	(2,923)	(2,718)	(2,631)	(2,748)	▲ 130	+ 47	
対前年増減		▲ 13	+ 114	▲ 278	+ 222	▲ 205	▲ 87	+ 117			
富良野市中卒者数	(236)	(216)	(216)	(228)	(182)	(197)	(167)	(182)	▲ 54	▲ 46	
対前年増減		▲ 20	± 0	+ 12	▲ 46	+ 15	▲ 30	+ 15			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見直し		摘要	
	普通	職業	計								
旭川東	7		7	-1				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数、これまでの進学状況や定員調整の状況などを考慮し、旭川市周辺町及び富良野市周辺町における再編整備や定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要			
旭川西	6		6	0							
単 旭川北	6		6	-1		普+1	普▲1				
総 旭川南	6		6	0							
旭川凌雲	4		4	-1	普▲4						
旭川東栄	4		4	-1	普▲4						
新設校					普+7 普通科単位制導入						旭川凌雲校舎を使用
旭川商業		商 6	6	0							
旭川工業		工 7	7	-1			工▲1				
旭川農業		農 4	4	0							
鷹 栖	1		1	0							
東 川	2		2	3							
美 瑛	2		2	29							
中 上 川	2		2	27							
単 富 良 野	4		4	5							
富良野緑峰		農 1 工 1 商 2	4	53							
上富良野	1		1	7							
*南富良野	1		1	26							
17校	46	21	67	145	普▲8 普+7	普+1	普▲1 工▲1				

上川北学区高校配置計画案

上川北学区高校配置計画案											
区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34年までの増減	平成31～34年までの増減	
学区内中卒者数	526	499	557	552	498	470	464	473	▲ 53	▲ 79	
対前年増減		▲ 27	+ 58	▲ 5	▲ 54	▲ 28	▲ 6	+ 9			
士別市中卒者数	(193)	(161)	(175)	(177)	(149)	(143)	(143)	(133)	▲ 60	▲ 44	
対前年増減		▲ 32	+ 14	+ 2	▲ 28	▲ 6	± 0	▲ 10			
名寄市中卒者数	(198)	(217)	(235)	(250)	(218)	(206)	(185)	(232)	+ 34	▲ 18	
対前年増減		+ 19	+ 18	+ 15	▲ 32	▲ 12	▲ 21	+ 47			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し			摘要
	普通	職業	計					○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数、欠員やこれまでの調整の状況などを考慮し、定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要			
士別翔雲	3	商 1	4	34							下川商業のセンター校
地 下川商業		商 1	1	19							
名 寄	4		4	2							美深のセンター校
地 美 深	1		1	21							
産 名寄産業		農 1 工 2 家 1	4	76							
総 *剣 淵	1		1	11							
*おといねっぶ 美術工芸	1		1	3							
7校	10	6	16	166							

留萌学区高校配置計画案

留萌学区高校配置計画案													
区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減			
学区内中卒者数	365	346	348	333	359	337	300	287	▲ 78	▲ 46			
対前年増減		▲ 19	+ 2	▲ 15	+ 26	▲ 22	▲ 37	▲ 13					
留萌市中卒者数	(162)	(166)	(162)	(132)	(154)	(140)	(151)	(132)	▲ 30	± 0			
対前年増減		+ 4	▲ 4	▲ 30	+ 22	▲ 14	+ 11	▲ 19					
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数				平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31~34年度までの見通し			摘要		
	普通	職業	計	H27 欠員									
単 留 萌	4		4	14			普▲4	○4年間で1~2学級相当の調整が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については地域キャンパス校化の検討が必要 ○地域キャンパス校及び農業に関する学科を置く第1学年1学級の高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要			苫前商業のセンター校		
留萌千望		工1 商1	2	20			工▲1 商▲1						
新設校							普+4、工+1 商+1 普通科単位制導入						留萌千望校舎を使用
羽 幌	2		2	31									
地 苫前商業		商1	1	10									
天 塩	2		2	27									
遠別農業		農1	1	26									
6校	8	4	12	128			普▲4、工▲1 商▲1、普+4 工+1、商+1						

宗谷学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34年までの増減	平成31~34年までの増減
学区内中卒者数	544	552	558	590	514	529	504	512	▲ 32	▲ 78
対前年増減		+ 8	+ 6	+ 32	▲ 76	+ 15	▲ 25	+ 8		
稚内市中卒者数	(305)	(306)	(293)	(314)	(263)	(276)	(263)	(262)	▲ 43	▲ 52
対前年増減		+ 1	▲ 13	+ 21	▲ 51	+ 13	▲ 13	▲ 1		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31~34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
稚 内	4→3	商 1 看 1	5	17				○4年間で1~2学級相当の調整が必要		豊富なセンター校 H27二次募集後学級減
地 豊 富	1		1	29				○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要		
浜 頓 別	2		2	29				○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要		
枝 幸	2		2	24				○生徒の多様な学習ニーズに対応した新しいタイプの高校の導入の検討が必要		
利 尻	1	商 1	2	62				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
礼 文	1		1	34				○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
								○離島にある高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		
6校	11 →10	3	13	195						

オホーツク中学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	1,418	1,382	1,336	1,371	1,248	1,241	1,138	1,165	▲ 253	▲ 206
対前年増減		▲ 36	▲ 46	+ 35	▲ 123	▲ 7	▲ 103	+ 27		
北見市中卒者数	(1,076)	(1,027)	(1,026)	(1,042)	(952)	(940)	(873)	(874)	▲ 202	▲ 168
対前年増減		▲ 49	▲ 1	+ 16	▲ 90	▲ 12	▲ 67	+ 1		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で4～5学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、北見市内及び周辺町における学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要		常呂のセンター校
単 北見北斗	6		6	-1						佐呂間のセンター校
フ 北見柏陽	6		6	0						
フ 北見緑陵	4		4	6						
北見工業		工 4	4	15	工▲1					
北見商業		商 4	4	0						
置 戸		福 1	1	21						
総 留 辺 薬	1		1	11						
地 佐 呂 間	1		1	16						
地 常 呂	1		1	27						
訓 子 府	1		1	16						
地 津 別	1		1	15						
美 幌	2	農 2	4	37				津別のセンター校		
12校	23	11	34	163	工▲1					

オホーツク東学区高校配置計画案

区 分	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	564	597	556	555	533	516	497	483	▲ 81	▲ 72
対前年増減		+ 33	▲ 41	▲ 1	▲ 22	▲ 17	▲ 19	▲ 14		
網走市中卒者数	(318)	(334)	(338)	(318)	(304)	(290)	(294)	(259)	▲ 59	▲ 59
対前年増減		+ 16	+ 4	▲ 20	▲ 14	▲ 14	+ 4	▲ 35		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 網走南ヶ丘	5		5	17				○4年間で1～2学級相当の調整が必要 ○中卒者数を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地域キャンパス校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要	清里のセンター校	
網走桂陽	2	商 2	4	1						
女 満 別	1		1	27						
総 斜 里	2		2	13						
地 清 里	1		1	28						
小 清 水	1		1	25	普▲1					
6校	12	2	14	111	普▲1					

オホーツク西学区高校配置計画案

オホーツク西学区高校配置計画案										
区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34 年までの 増減	平成31～34 年までの 増減
学区内中卒者数	520	558	527	499	520	471	464	417	▲ 103	▲ 82
対前年増減		+ 38	▲ 31	▲ 28	+ 21	▲ 49	▲ 7	▲ 47		
紋別市中卒者数	(170)	(190)	(181)	(157)	(168)	(140)	(152)	(136)	▲ 34	▲ 21
対前年増減		+ 20	▲ 9	▲ 24	+ 11	▲ 28	+ 12	▲ 16		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計					○4年間で2～3学級相当の調整が必要 ○中卒者数を考慮した定員調整の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		興部のセンター校
単 遠 軽	5		5	23						
紋 別	3	工 1 商 1	5	54						
地 興 部	1		1	4						
滝 上	1		1	24		普▲1				
雄 武	1		1	21						
中 高 湧 別	2		2	29						
6校	13	2	15	155		普▲1				

十勝学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34年までの増減	平成31～34年までの増減
学区内中卒者数	3,220	3,186	3,100	3,061	3,059	2,964	2,861	2,849	▲ 371	▲ 212
対前年増減		▲ 34	▲ 86	▲ 39	▲ 2	▲ 95	▲ 103	▲ 12		
帯広市中卒者数	(1,500)	(1,470)	(1,409)	(1,373)	(1,344)	(1,335)	(1,261)	(1,289)	▲ 211	▲ 84
対前年増減		▲ 30	▲ 61	▲ 36	▲ 29	▲ 9	▲ 74	+ 28		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
帯広柏葉	7		7	0				○4年間で4～5学級相当の調整が必要		
単 帯広三条	7		7	0			普▲1	○欠員の状況、これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、再編整備を含めた定員調整の検討が必要		
帯広緑陽	4		4	0				○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要		
帯広工業		工 4	4	0				○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
帯広農業		農 5	5	0						
*帯広南商業		商 5	5	0						
単 音 更	4		4	0						
芽 室	4		4	0						
幕 別	2→1		1	10						H27二次募集後学級減
上 士 幌	2		2	5						
*士 幌		農 2	2	6						
総 清 水	4		4	35						
新 得	1		1	14		普▲1				
中高 鹿 追	2		2	6						
更別農業		農 2	2	28						
大 樹	2		2	34						
中高 広 尾	2→1		1	2	普+1 (計画変更)					H27二次募集後学級減
総 池 田	2		2	14						
本 別	2		2	32						
足 寄	2		2	35						
20校	47 →45	18	63	221	普+1	普▲1	普▲1			

釧路学区高校配置計画案

区 分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28~34 年までの 増減	平成31~34 年までの 増減	
学区内中卒者数		1,996	2,025	2,056	1,994	1,965	1,877	1,797	1,841	▲ 155	▲ 153	
対前年増減			+ 29	+ 31	▲ 62	▲ 29	▲ 88	▲ 80	+ 44			
釧路市中卒者数		(1,439)	(1,440)	(1,514)	(1,440)	(1,409)	(1,361)	(1,304)	(1,350)	▲ 89	▲ 90	
対前年増減			+ 1	+ 74	▲ 74	▲ 31	▲ 48	▲ 57	+ 46			
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要		
釧路湖陵	6		6	-2				○4年間で3～4学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や欠員の状況を考慮し、学級減や再編整備を含め、その在り方の検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		阿寒のセンター校		
単 釧路江南	6		6	0			普▲1					
釧路商業		商 4	4	-1								
釧路工業		工 6	6	14								
(釧路工業)		(工2)	(2)	(70)	[工▲1]							
総 釧路明輝	5		5	-1								
フ *釧路北陽	6		6	0								
釧路東	3		3	0								
地 阿寒	1		1	14								
白糠	2		2	29								
総 標茶	3→2		2	12	総+1 (計画変更)							H27二次募集後学級減
弟子屈	2		2	33								
厚岸翔洋	1	水 1	2	35								
*霧多布	2		2	32								
13校	37 →36	11	47	165	総+1 [工▲1]		普▲1					

根室学区高校配置計画案

区 分	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	平成28～34年までの増減	平成31～34年までの増減
学区内中卒者数	707	750	803	713	735	741	655	676	▲ 31	▲ 37
対前年増減		+ 43	+ 53	▲ 90	+ 22	+ 6	▲ 86	+ 21		
根室市中卒者数	(200)	(266)	(244)	(204)	(204)	(215)	(202)	(200)	± 0	▲ 4
対前年増減		+ 66	▲ 22	▲ 40	± 0	+ 11	▲ 13	▲ 2		
学校名	平成27年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計			H27 欠員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31～34年度までの見通し		摘要
根 室	3	商 2	5	46		普▲3 商▲2		○4年間で0～1学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い小規模校については、地域キャンパス校化の検討が必要		
根 室 西	2→1		1	19	普+1 (計画変更)	普▲2				H27二次募集後学級減
新設校					普+4、商+2 普通科・商業科 単位制導入					根室校舎を使用
別 海	2	農 1	3	40						
中 標 津	4	商 2	6	58						
標 津	2		2	12						
*中標津農業		農 2	2	51						
中高 羅 臼	2		2	38						
7校	15 →14	7	21	264	普+1	普▲5、商▲2 普+4、商+2				

《全学区共通事項》

平成28年度以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。